

# 道徳通信

No.17 2023年(令和5年)1月10日(火)



学習日：12月22日(木) 内容：「住みよい社会に」

マナーの向上に監視カメラは必要かを考えさせることで、住みよい社会を創るために必要なものについて考えました。誰かに見られているかどうかではなく、私たちはみな積極的に協力して住みよい社会をつくっていく一員であることを自覚していきましょう。

## 【生徒の考え】 授業後に考えたこと、感じたこと

住みよい社会にしていくには、1人1人がマナーを守っていくことが大切だと思いました。

みんなが当たり前のこと(マナーやルール)を守れば、監視などなくても安心して暮らす社会になっていくと思いました。

1人1人がルールやマナーの大切さを考えて守っていけば住みよい社会になると思いました。一部の人間の横暴で回りが虐げられることがあってはならないと思いました。

まずは、自分がマナーを守ることが大切だと思いました。

駄目なところをなおすためのもの(監視カメラなど)は必要な場所に必要数つけるのが良いと思う。しかし、住民の声をしっかりきいていくことが大切だと思いました。

ルールやマナーが守られるのはいいことだけれど、監視されすぎると息苦しくなってくると考えました。

監視カメラは防犯になるが、誰かに見られ続けるのは怖いし、気持ち悪いと感じました。

ある程度警備は必要だと思うけど、ずっと見られているのは嫌だから限度を超えない範囲で監視をするのが良いと思う。

シンガポールでは、ごみのポイ捨てに罰金(約7万円)が科せられます。これらの効果もあって、シンガポールの観光地や市街地はきれいでした。ところが、最近ポイ捨てが増えているようです。さらに罰金は厳しくなりましたが、ポイ捨ては減っていません。

みなさんは優れた監視や罰金だけで住みよい社会がつかれると思いますか。ほかに何が必要だと思いますか。安全で安心できる学校にも同じことが言えます。考えてみて下さい。